

## 令和 7 事業年度 事業報告書

J-PARC 特定中性子線施設 登録施設利用促進機関

一般財団法人総合科学研究機構

一般財団法人総合科学研究機構（以下「CROSS」という）は、「特定先端大型研究施設の共用の促進に関する法律（平成 6 年法律第 78 号）」（以下「共用法」という。）第 8 条の規定に基づき、令和 7 年 4 月 1 日から特定中性子線施設（J-PARC MLF）の利用促進業務を行う登録施設利用促進機関（以下、「登録機関」という）として 1 年間「特定中性子線施設利用促進業務」を実施した。

### 1. 利用者選定業務

#### （1）利用者の公募及び選定業務

##### ① 2025B 期（利用期間：令和 7 年 3 月）

一般利用課題の 2025B 期の課題募集を行い、第 26 回利用研究課題審査委員会において一般利用課題（短期、1 年、優先、産業利用促進）49 課題の中から 34 課題が承認された。

一般利用課題（長期）は継続課題 20224L の 2 課題の継続が承認された。

令和 7 年 8 月 27 日に第 33 回選定委員会を開催し、一般利用課題審査結果の審議及び次年度の公募、審査方針等について意見を聴取し、2025B 期の一般利用課題（短期、1 年）として最終的に 34 課題を、一般利用課題（長期）として、2 課題の継続課題の採択を決定した。

##### ② 2026A 期（利用期間：令和 8 年 4 月～令和 8 年 6 月）

一般利用課題の 2026A 期の課題募集を行い、第 27 回利用研究課題審査委員会において一般利用課題（短期、1 年、優先、産業利用促進）125 課題の中から 81 課題が承認された。なお、一般利用課題（優先課題）は申請件数 4 課題中 4 課題が、一般利用課題（産業利用促進課題）は申請件数 1 課題中 1 課題が承認された。令和 8 年 3 月 10 日に第 34 回選定委員会を開催し、一般利用課題審査結果の審議及び次年度の公募、審査方針等について意見を聴取し、2026A 期の一般利用課題（短期、1 年、優先、産業利用促進）として最終的に 81 課題の採択を決定した。

### 2. 利用支援業務

#### （1）情報支援等

##### ① 情報支援

ア. 質の高い研究成果を効率的に創出していくため、利用研究を通じて創出された論文等の成果については J-PARC センターと連携してデータベース化及び統計情報分析を行い、MLF の Web 上に MLF に関する論文数の推移及び Top10%論文分析結果等を情報発信し、適宜更新し提供した。

イ. 利用者に向けた最新のビームライン情報や利用者支援に関わる情報、中性子線の新規利用者を発掘し利用分野を拡大するための新規利用者による利用研究成果（トリアルユース課題報告書及び新利用者支援課題（NUP）報告書等）等の情報、中性子科学センターの業務内容等をインターネットやパンフレット等により利用者に提供した。

ウ. 本年度は以下の 9 件について他機関と共同でプレス発表し、インターネットや新聞等のメディアを通じて情報を発信した。

(a) 燃料電池の未来を拓く

－触媒層内の”水”を定量的に評価する新手法の確立－

発表日：4月17日

共同発表：豊田中央研究所、日本原子力研究開発機構、J-PARC センター

(b) 高伝導性フラストレート磁性体における巨大ホール効果

－磁性体における異常ホール効果の新しい発現機構を実証－

発表日：6月20日

共同発表：理化学研究所、日本原子力研究開発機構、J-PARC センター

(c) がんに関わる酵素の反応過程を捉えた！

－酵素反応の仕組みを X 線と中性子を用いて観察－

発表日：7月14日

共同発表：熊本大学、量子科学技術研究開発機構、茨城県、J-PARC センター

(d) 10m 以上伸びるスライムのレシピが明らかに！科学で迫るスライムのしくみ

－超延伸性スライムの創成と物性を探る研究成果を発表－

発表日：8月28日

共同発表：多摩六都科学館、高エネルギー加速器研究機構

(e) 重水素で進化するアミノ酸

－水素の同位体「重水素」が紫外線に負けないアミノ酸を生み出す－

発表日：10月2日

共同発表：日本原子力研究開発機構、J-PARC センター

(f) 神経・腎疾患をもたらす酸化還元タンパク質の構造揺らぎ

－チオレドキシンの突然変異が疾患の原因となる仕組みを解明－

発表日：10月6日

共同発表：理化学研究所、岡山大学、日本原子力研究開発機構

(g) p 波磁性体と呼ばれる新しいタイプの磁性体を実現

－電流を用いた高効率な磁化制御などへ期待－

発表日：10月22日

共同発表：理化学研究所、東京大学、高エネルギー加速器研究機構、J-PARC センター、日本原子力研究開発機構、科学技術振興機構

(h) 次世代「ナトリウムイオン電池」の充電メカニズムを世界で初めて直接観測！

－中性子散乱を用いたマルチスケール観測で、ハードカーボンの謎を特定－

発表日：2月27日

共同発表：東北大学、東京理科大学、横浜国立大学、東京科学大学、J-PARC センター、日本原子力研究開発機構、京都大学

(i) 情報の安定性と信号強度の両立を実現

—保磁力最大約 10 倍を達成、次世代省エネ磁気メモリへ—

発表日：3月18日

共同発表：東北大学、量子科学技術研究開発機構、名古屋大学、日本原子力研究開発機構、J-PARC センター

② 講習会、研究会活動等の啓発活動支援

J-PARC センター、茨城県、中性子産業利用推進協議会及び J-PARC MLF 利用者懇談会、並びに他施設の登録機関 (JASRI、RIST) と連携して、シンポジウム、研究会、講習会等を実施するとともに、国内外で開催された学会等にポスター展示やブース出展を行い、利用者等への成果の発信と中性子利用ユーザーを拡大し、MLF の成果創出を目指した活動を行った (巻末の参考資料参照、全 36 件)。

③ その他の支援

ア. 来所する利用者の貸与物品の管理・貸し出し、各種問い合わせ対応等の窓口業務を行った。

イ. 窓口業務以外として、安全教育の実施、入構手続きや VISA 申請に必要な書類の作成等、利用者の受入に必要な手続きを行った。

(2) 技術支援等

① 実験手法の開発

中性子線共用施設を利用する者に対する支援として、高度利用技術の開発を通じた最先端利用研究手法等の提供、中性子線利用実験前の相談、実験技術指導等を MLF のスタッフと連携して行った。その結果、共用 BL から査読付き英語論文が 62 報、学位論文が 7 報発表された。また、6 件のプレスリリース、10 件の受賞がなされた。CROSS 実験室を利用した成果としては、査読付き英語論文が 11 報公表された。

ア. BL01 (四季) グループ

Zr 基バルク金属ガラスを用いた中性子非弾性散乱用圧力セルの開発、ボトムローディング冷凍機の整備、装置の Signal/Background (S/B) 向上の継続を計りそれらを活用した共用実験、利用者技術支援が行われた。その結果として、窒化物触媒内ヒドリドイオンの配置と動態の解明、カゴメ格子反強磁性体の無ギャップ励起の観測、鉄系 FeSe のネマティック相におけるスピン相関の特定、二次元ペロブスカイトの構造動態と発光効率の関係解明、CuGeO<sub>3</sub> スピン・パイエルズ相のフォノン分光、三角格子におけるトリプル Q 磁気秩序の動態解明など、BL01 から 6 件の査読付き論文の成果創出に貢献した。

イ. BL02 (DNA) グループ

モニタースティックを用いた入射中性子ビームプロファイルの測定、Si311 アナライ

ザーを用いた高  $Q$  領域の測定/解析、多重散乱の評価など実験データの精度向上につとめ、これらを活用して実験課題の共用実験、利用者技術支援を行った。その結果として、中性子準弾性散乱用タンパク質の重水素化、 $\text{AgCrSe}_2$  の磁気基底状態の解明、変性タンパク質の構造変化の起源の解明、チタン酸バリウム中のヒドリドのダイナミクス、リチウム濃厚塩水溶液の粘弾性挙動、電荷を有するリン脂質を混合したリン脂質二分子膜中の水のダイナミクス、層状化合物中の水のダイナミクスの異方性に関する準弾性散乱、 $\text{Ti}_4\text{MnBi}_2$  の磁性の一次元性など、8 件の成果創出に貢献した。

ウ. BL11 (PLANET) グループ

6 軸プレス及び中型プレス用ガスケットの製作や、低温高压システム (Mito システム) の整備などの高压実験環境の構築を実施した。CROSS 開発課題では内熱式パリエジンバラセルの開発を行い、さらにピストンシリンダーセルやダイヤモンドアンビルセルの高度化を通じて、実験可能な温度圧力範囲の拡張に努めた。これらを活用した利用者への技術支援の結果、高压下での 1-ヘキセンの反応、反強磁性重水素化マンガンの磁気構造、ナトリウムケイ酸塩メルトの結合伸長、GPa 領域におけるスカンジウム(III)のイオン溶媒和と水の構造、静水压下での  $\text{ReO}_3$  の結晶構造、グラフェンナノリボンやカーボンナノスレッドの合成、バロカロリック効果、 $\text{BaSiH}_6$  の合成、 $\epsilon\text{-FeOOH}$  の水素結合対称化、磁性体  $\text{Fe}_3\text{GeTe}_2$  の安定性解明など、多岐にわたる分野で計 12 報の学術論文の成果創出に貢献した。

エ. BL15 (大観) グループ

CROSS 開発課題を用いて Rheo-SANS や TAIKAN の湿度制御システムの高度化、オペランド SANS 用電池セルの開発を行い、プロジェクト課題では、中性子光学装置の開発や GX 対応のエネルギーデバイス評価技術の構築、構造材料の破壊メカニズム解明を推進した。長期課題ではパルス磁場と偏極中性子解析環境を整備し、非共線磁気秩序の創發現象の研究を実施した。一般課題では生命科学、エネルギー材料、ソフトマターの 3 領域を軸に、核酸・タンパク質複合体や脂質ナノ粒子の構造解明、次世代電池やセメント材料の反応過程における「その場観察」、磁気テクスチャや複雑液体の界面挙動など、基礎から応用まで多角的な実験を支援した。その結果、学術論文 16 報、学位論文 3 報、受賞 1 件、プレス発表 3 件の成果創出に貢献した。

オ. BL17 (写楽) グループ

温調セルの多連装化や弱磁場用マグネットの整備など、試料環境の拡充を進めて共用実験や利用者支援を実施した。CROSS 開発課題では、可視光分光・中性子反射率同時測定装置の高度化、めっき被膜の in-situ 測定装置の開発、精密弱磁場環境の強化を行い、技術支援に活用した。新利用者支援制度では、電気二重層の観察や界面活性剤の固液界面吸着挙動といった挑戦的課題を推進。研究成果としては、ケイ酸塩の構造と特性、エポキシ樹脂界面層の接着強度、トポロジカル絶縁体の磁性、義歯コーティングの物理特性、GISANS 用集束ミラー開発、薄膜中の光拡散速度論、高分子液晶による正極コーティングなど、基礎から応用まで多角的な研究を支援し、学術論文 8 報の成果創出に貢献した。

#### カ. BL18 (千手) グループ

前年度に引き続き大型検出器の導入を実施し、測定環境の高効率化を実現した。また、解析ソフトの高度化により測定データの共有化およびリモート解析環境の強化を図り、ユーザーの研究ワークフローの効率化を推進した。これらを活用した共用実験および利用者への技術支援を行った結果、高伝導性フラストレート磁性体における巨大ホール効果の機構解明、広温度領域で超弾性特性を示す新規軽量形状記憶合金の開発、金属 p 波磁性体の実証、グラファイト電極におけるリチウム化相のオペランド中性子イメージングと回折分析の同時測定、らせん型反強磁性体  $\text{CeVGe}_3$  のメタ磁性転移の研究など、計 6 報の学術論文の成果創出に貢献した。このうち、広温度領域で超弾性特性を示す新規軽量形状記憶合金の開発および金属 p 波磁性体の実証は *Nature* への掲載論文であり、さらに 3 件のプレス発表が行われた。

#### キ. BL22 (螺鈿) グループ

これまでに引き続き、計数型イメージング検出器およびカメラ型検出器の開発を実施した。また、共鳴吸収イメージングデータ解析コード RAIM (Resonance Analysis code for IMaging) の整備を行った。これらの成果を基盤として、共用実験の実施および利用者への技術支援を推進し、日本刀の内部構造および結晶構造の非破壊検査、銅鏡の結晶構造および元素分布の非破壊評価、車載燃料電池の発電時における内部水挙動の可視化、アモルファスリボン (磁性材料) における磁区挙動の観察、高温高压亜臨界水中におけるポリマー溶解挙動の観察、ヒートポンプの除霜過程における融解水挙動の観察、形状記憶合金 (Cu-Al-Mn 合金) の熱処理過程における異常粒成長の観察など、多岐にわたる分野の研究課題実施を推進し、学術論文 9 件、博士学位論文 2 件、受賞 3 件の成果創出に貢献した。

#### ク. 利用実験グループ及び解析情報グループ

共用実験における電気、機械、化学等の技術支援、消耗品管理、工作支援などの利用技術支援を行った。工作支援では 3D プリンターを新たに導入し、装置部品、治具等の製作支援を行う他、CROSS ラボ利用ユーザーへの共用環境を整備した。また、MLF 安全チームと連携して化学安全審査、機器安全審査、放射線安全審査等を実施し、MLF SE チームと連携して共通 SE 機器利用のユーザー実験を支援した。特に、共通 SE 機器である 7T マグネットを用いた実験では、リモート He トランスファー技術を開発した。これは、スライドハッチを開口せずに、分光器室内のマグネットに液体 He を補充する技術である。この技術により、マグネットを励磁したままの状態、ビームタイムをロスすることなく、長時間、連続測定することを可能とした。また、CROSS ラボの利用支援に関しては、PPMS (Physical Property Measurement System、物理特性測定システム) のオプション (VSM、 $^3\text{He}$  比熱測定) を利用したユーザーから、合計 6 本の論文が出版された。ここ数年のユーザー支援の成果が多数の論文出版という形で結実した。

ビームラインの計算機環境についても開発及び改良を進めている。クラウド環境の活用を継続的に進めており、Web やリモートデスクトップを用いて外部から簡便に状況

を確認および解析処理を行える環境や、施設情報等を共有するシステムを構築し、ユーザーに提供している。これらの開発成果や技術を共用 BL に展開することで、多くの利用成果の創出に貢献している。

## ② 実験支援

共用ビームライン (BL) で、下記の表の件数の課題が採択され各採択課題の利用支援（実験相談、試料及び機器の設置、ビーム実験、データ解析及び検討）を行った。また、中性子線共用施設の課題安全審査及び中性子線共用施設利用者に対する安全に関する支援も行った。

表. 各装置の実験支援課題件数

| 課題                                           | BL01      | BL02      | BL11      | BL15      | BL17      | BL18      | BL22      |
|----------------------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| <b>2025A</b><br>一般利用課題<br>(短期、1 年、優先、産業利用促進) | 12 (1)    | 16 (1)    | 8         | 15        | 13 (1)    | 11        | 13        |
| <b>2025B</b><br>一般利用課題<br>(短期、1 年、優先、産業利用促進) | 4         | 7 (1)     | 1         | 8         | 9 (1)     | 4         | 4         |
| <b>2022L</b><br>一般利用課題<br>(長期) (継続)          | 0         | 0         | 0         | 1         | 0         | 0         | 0         |
| <b>2024L</b><br>一般利用課題<br>(長期) (新規)          | 0         | 1         | 1         | 0         | 0         | 0         | 0         |
| <b>2025L</b><br>一般利用課題<br>(長期) (新規)          | 0         | 0         | 0         | 0         | 0         | 0         | 0         |
| <b>2025 年度<br/>通年課題</b>                      | 2         | 2         | 2         | 6         | 6         | 2         | 5         |
| <b>計</b>                                     | <b>18</b> | <b>26</b> | <b>12</b> | <b>30</b> | <b>28</b> | <b>17</b> | <b>22</b> |

2025A および 2025B の一般利用課題（短期、1 年、優先、産業利用促進）には、新利用者支援課題及び FTP、緊急課題を含む。（ ）内の数字は新利用者支援課題件数。

2022L 一般利用課題（長期）は 1 課題で複数装置への申請が可能となっており、2024L 以降の一般利用課題（長期）からは 1 課題につき 1 装置への申請が可能となっている。2022L 長期課題（継続）は、2022B 期に新規採択され、継続している課題を示す。2023L 長期課題は、COVID-19 などの影響で実施できなかった長期課題のビームタイム繰り越し、および電気代高騰により十分なビームタイム供給に困難が予想されたため公募は行われなかった。通年課題は、装置グループ課題、プロジェクト課題、CROSS 開発課題を含む。

### 3. 産業利用の促進

- (1) 産業利用の更なる活性化に向けて、産業界との次期連携体制構築を目的に立ち上げた「高圧中性子利用研究会」の活動として、2月25日に第8回研究会を開催し、中性子実験用高温高圧セルの整備状況とそれを用いたバイオマス試料やプラスチックの分解過程に関する研究等について報告するとともに、装置の高度化に対する要望や今後の組織間連携の方向性についてなど、意見交換を行った。
- (2) 「第113回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会ー小角散乱測定研修会ー」を11月6日に SPring-8、3月23日に MLF BL15 にて開催するとともに、運転停止により延期となっていた「第11回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会ー小角散乱測定研修会ー」を10月にサンプル預かり測定とした。さらに、「第12回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会ー粉末回折測定研修会ー」を11月5日に SPring-8、11月13日に JRR-3、3月10日に iMATERIA にて開催するとともに、運転停止により延期となっていた「第10回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会ー粉末回折測定研修会ー」を10月31日および3月10日(3月10日は第12回と合同開催)に iMATERIA にて開催した。
- (3) 中性子と放射光の連携利用を進め更なる成果創出を目指すため、放射光施設の登録機関(JASRI)と連携して、中性子の横断利用に関する Web サイト「Concierge」を令和3年度に開設し、引き続きその運営を行った。また、「第90回 SPring-8 先端利用技術ワークショップ/第5回放射光・中性子連携 利用研究会/第1回量子ビームを用いた構造材料研究会」を今年度で開催し、学術利用及び産業利用におけるこれまでの放射光・中性子の連携利用による成果、量子ビーム施設側の連携利用への取組の現状についての情報収集を行った。

### 4. 新規利用者の開拓、人材育成

#### (1) 新規利用者の開拓

##### ① 学術利用者の開拓

- i. 「中性子散乱による食品科学研究最前線」(第31回)、「高圧中性子実験に向けた装置開発及びサイエンスへの展開」(第32回)と題した CROSSroads 研究会を開催し、中性子散乱による食品科学の研究や、高圧下での中性子実験に関する装置開発、研究の最前線について議論され、これら新しい利用分野での利用拡大に関して研究者の連携を深めた。
- ii. 外部機関との連携、NUP の積極的な活用、J-JOIN による一元的な利用相談窓口などにより学術の新規利用者を発掘した。
- iii. 中性子産業利用推進センターと連携し、相補的なビームラインの使用や人材交流、情報交換を通じて学術分野の利用を促進した。

##### ② 産業利用者の拡大

- i. J-PARC センター及び茨城県等と緊密に連携し、外部機関との協力体制の構築、NUP の積極的な活用、J-JOIN による一元的な利用相談窓口などを通じて、産業界のニーズを

引き出すとともに、施設から創出される産業価値を明確に打ち出し、県内・県外企業とともに将来パワーユーザーになり得る新たな産業利用者を掘り起こした。

- ii. 中性子産業利用推進協議会との連携を強化し、中性子産業利用報告会、中性子実験技術基礎講習会（レベル1講習会）、中性子構造生物研究会、電池・材料研究会など様々な報告会、研究会を開催し、産業利用者の開拓を行った。

## （2）人材育成

- ① CROSS 職員が研究代表者を務める CROSS 開発課題が 8 件実施され、圧力下非弾性中性子散乱測定に関わる技術開発、中温高压実験用パリ・エディンバラセルの開発、Rheo-SANS 実験環境の高度化：シアセルの整備 3、充放電過程における SANS 実験用電池セルの開発 III、分光分析法と中性子反射率法を協奏的に利用した薄膜試料のナノ構造/物性同時計測法の開発、銅めっき膜界面の構造研究に向けた中性子反射率測定用試料環境の整備、金属ガラス製ピストンシリンダーセルを用いた単結晶中性子構造解析手法の開発、中性子スピンエコーイメージング法の開発など、新たな利用、技術の開拓が行われた。また、CROSS 開発課題以外にも、メンバーが所属する装置グループの研究活動を通じて中性子線共用施設の新しい利用技術や利用分野、利用方法など幅広い科学分野の先導的研究開発が進められ、利用支援者の支援スキルや研究力が向上した。
- ② 中性子・ミュオンスクールを開催した他、国内外の大学・研究機関等と連携し、4 件の研究生及び研究者を受け入れ、将来の潜在的なユーザーとなる人材を育成した。また、ICQ16、ICALEPCS2025、Neuwave-13 などの CROSS の利用支援業務と密接に関係する国際会議に CROSS 職員を派遣し、最新の知見や国際的な連携を深めた。また科研費等の外部資金の申請や高压中性子実験の知見を得るべく PSI に技術職員を派遣支援等を通じて、研究職員や技術職員を育成した。
- ③ CROSS で進められた技術開発を広く発信するために、技術報告書を CROSS reports を発行し、令和 7 年度は J-PARC MLF BL11 におけるリモートデスクトップ接続を用いたリモート解析環境の構築、J-PARC MLF BL17 1 T マグネット電流制御用小型デバイス制御サーバーの開発、J-PARC MLF の実験報告書公開環境の整備、J-PARC MLF のビームライン関連研究成果分析— 2025 年 1 月実施 に関して、DOI を付けて外部に公開した。

## 5. J-PARC センター等との連携協力

J-PARC における特定中性子線施設に係る利用促進業務を円滑に実施するための MLF 運営調整会議（J-PARC センター、JAEA、KEK、CROSS 及び茨城県のメンバーから構成）を 2 回開催し、MLF の成果最大化や利用運転に関する議論などを行った。



## [参考資料]

主催、共催、協賛、後援した講習会、研究会、セミナー等は以下の通り 36 件である。

1. 中性子構造生物学研究会「抗体医薬品の構造・物性・機能解析の最前線」(4/22 オンライン開催) / 117 名
2. 第 110 回 SPring-8 先端利用技術ワークショップ, 第 5 回放射光・中性子連携利用研究会, 第 3 回量子ビームを用いた構造材料研究会 (5/30 オンライン開催) / 99 名
3. 2025 年度中性子実験技術基礎講習会 (レベル 1 講習会) (6/26 オンライン開催) / 119 名
4. 令和 7 年度中性子産業利用報告会 (7/17~7/18、ハイブリッド開催@秋葉原コンベンションホール) / 388 名 (スタッフ含む)
5. 令和 7 年度中性子イメージング研究会 (8/22~8/23 ハイブリッド開催@新橋ビジネスフォーラム) / 延べ 173 名
6. 第 1 回 MLF ロードマップワークショップ (8/26 ハイブリッド開催@秋葉原 UDX) / 196 名
7. 第 30 回 CROSSroads Workshop 「J-PARC MLF におけるフォノン研究の現状と展望: 理論と実験の連携強化に向けて」 (9/1 ハイブリッド開催@AQBRC) / 現地 25 名、オンライン 44 名 (オンライン参加は現地との重複あり)
8. 第 22 回 SPring-8 産業利用報告会 (9/2~3 @大阪科学技術センター) / 189 名
9. 第 31 回 CROSSroads Workshop 「中性子散乱による食品科学研究最前線」 (9/8~9 @AQBRC) / 50 名
10. 中性子産業利用推進協議会 2025 年度第 1 回金属材料研究会, 日本金属学会 量子ビーム解析技術研究会 2025 年度研究会 (9/16 ハイブリッド開催@北海道大学 工学部) / 28 名
11. パルス中性子によるミクロ構造評価・解析技術研究会・高分解能イメージングと超小角散乱に基づくマイクロメートルスケール物質科学の新しい展開 (9/27 @秋葉原 UD) / 49 名
12. 第 11 回 大型実験施設とスーパーコンピュータとの連携利用シンポジウム (10/17 ハイブリッド開催@秋葉原 UDX) / 150 名
13. CBI 研究機構 量子構造生命科学研究所 中性子産業利用推進協議会 生物・生体材料研究会 合同シンポジウム「New Structure Based Drug Discovery I」 (10/14 オンライン開催) / 136 名
14. 第 20 回材料系ワークショップ (10/16 ハイブリッド開催@秋葉原 UDX) / 159 名
15. 2025 年度初級者向け Z-Code 講習会 (10/15~10/16 オンサイト開催@航空会館ビジネスフォーラム) / 46 名
16. 第 11 回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会「小角散乱測定研修会」 (10 月 J-PARC MLF BL15 サンプル預かり測定)
17. 第 12 回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会「粉末回折測定研修会」 (11/13 JRR-3 HERMES) / 11 名
18. 第 10 回および第 12 回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会「粉末回折測定研修会」 (10/31 J-PARC MLF BL20 / 2 名 (第 10 回参加者), 3/10 J-PARC MLF BL20 / 10 名 (第 10 回参加者 1 名, 第 12 回参加者 9 名))
19. The 14th AONSA Neutron School/The 9th Neutron and Muon School (11/17~11/21 @AQBRC、J-PARC、JRR-3) / 38 名
20. 日本中性子科学会第 25 回年会 (11/26~28 @理化学研究所 和光地区) / 230 名

21. 2025 年度 理研小型中性子源システム RANS プロジェクト シンポジウム (12/1 @ 理化学研究所 和光地区) / 約 100 名
22. 異種材料界面構造研究会 (講習会) (12/16 ハイブリッド開催@ニュースバル (兵庫県立大学 高度産業科学技術研究所)) 12 名
23. 第 32 回 CROSSroads Workshop 「高圧中性子実験に向けた装置開発及びサイエンスへの展開」 (1/8~9 ハイブリッド開催@AQBRC) / 48 名
24. 中性子構造生物学研究会「創薬と量子ビーム (X線、中性子、電子線)」 (1/20 オンライン開催) / 87 名
25. 2025 年度磁性材料研究会 (1/23 ハイブリッド開催@東北大学 片平北門会館) / 57 名
26. 電池材料研究会 ―中性子・放射光構造解析による次世代電池 (燃料電池、二次電池) 開発― (1/23 ハイブリッド開催@航空会館ビジネスフォーラム) / 67 名
27. マテリアル戦略推進シンポジウム 2026 (1/30 @東京ビックサイト) / 532 名
28. 第 8 回高圧中性子利用研究会 (2/25 ハイブリッド開催@航空会館ビジネスフォーラム) / 35 名
29. 第 21 回材料系ワークショップ (2/25 ハイブリッド開催@秋葉原 UDX) / 242 名
30. 液体・非晶質研究会 (3/13 ハイブリッド開催@水戸市民会館) / 48 名
31. 中級者向け Z-Code 講習会 (3/6~4/20 オンデマンド開催) / 47 名
32. 2025 年度量子ビームサイエンスフェスタ (3/11~13 @水戸市民会館) / 607 名
33. 第 2 回 MLF ロードマップワークショップ (3/14 ハイブリッド@水戸市民会館) / 130 名
34. CBI 研究機構 量子構造生命科学研究所 中性子産業利用推進協議会 生物・生体材料研究会合同シンポジウム「New Structure Based Drug Discovery II」 (3/23 オンライン開催) / 81 名
35. 第 13 回放射光・中性子の連携利用に向けた合同研修会「小角散乱測定研修会」 (2026/3/23 J-PARC MLF BL15) / 10 名
36. 異種材料界面構造研究会 (3/31 ハイブリッド開催@航空会館ビジネスフォーラム) / 15 名